



『 COPD（慢性閉塞性肺疾患）について 』

COPDとは、慢性気管支炎や肺気腫といわれていた病気の総称で、「たばこの煙を主とする有害物質を長期に吸入することで生じる肺の炎症性疾患」のことで、喫煙習慣を背景に中高年に発症する生活習慣病と考えられています。

COPDの最大の原因は喫煙習慣です。喫煙歴があり、坂道や階段を上った時、荷物を持った時など、体を動かしたときに感じる息切れや慢性的な咳や痰の症状がある人はCOPDが疑われ、スパイロメトリー（呼吸機能検査）で診断されます。なお気管支喘息とCOPDを区別することは難しいこともありますが、一般的には気管支喘息では安静時も喘鳴や息苦しさがあるのに対し、COPDでは安静時に喘鳴や息苦しさはなく、身体を動かすとセーセーして息苦しくなるという違いがあります。

COPDは治る病気ではありませんので、治療の目標は肺がこれ以上壊れないようにすることと、症状をやわらげて生活の質を維持することになります。

肺の機能は年齢とともに低下していきませんが、喫煙者の場合は急激に低下することがわかっています。ですから症状があれば、一刻も早く禁煙する必要があります。その上で症状により気管支拡張剤等の薬やリハビリ、在宅酸素等で治療を行っていくことになります。



鹿児島厚生連病院

呼吸器内科

中塩屋 二郎

(現職 鹿大医学部付属病院)